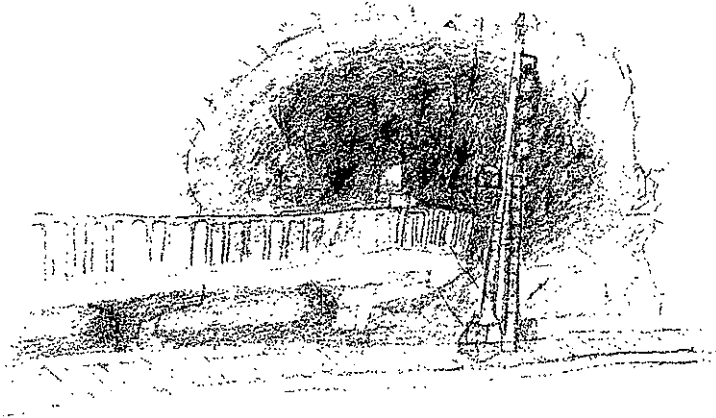


第 30 号
平成 15.11.1 発行
編集 京都教育大学
保健管理センター

CAMPUS HEALTH



no. 30. 01

畑 純恵

京都教育大学大学院生。'02年 ホテルグランヴィア京都に作品展示。

'03年 大学内のギャラリーANAGURAにて個展“せかいのうた”開催。

— 保健管理センター業務予定 —

-
- | | |
|-----|------------------------|
| 10月 | ○ 秋季定期健康診断（CMI問診1回生対象） |
| 11月 | ○ 特別健康診断（1回生心電図検査） |
| | ○ 特別健康診断（放射線取扱学生対象） |
| | ○ 教職員のためのメンタルヘルズ講座 |
-

神経症の2つの顔～「悩み」と「病い」

神経症はドイツ語で「ノイローゼ」といいます。近代日本の医学はドイツから入ってきたためにノイローゼというドイツ語は日常でも使われる言葉になりました。この病名は18世紀にスコットランドの医師カレンが創り出したもので、「ニューローシス neurosis」が語源です。これはニューロ（神経）とシス（症）を組み合わせたもので、神経の病いを意味していました。この時代ではヒステリーや心気症は、てんかんや脳卒中と共に、全身に障害のみられる神経疾患として分類されたのでした。ところが時代が進むにつれて、てんかんや脳卒中は脳神経に起因する障害であることがわかってきました。そして発病の原因やメカニズムがわかるにつれて神経症から様々な病名がはずれてゆき、現在では「生きる悩み」ともいうべきものが「神経症」の枠に残っているのです。

それでは神経症とはどのようなものなのでしょうか。神経症は人として成長する過程で通らねばならない悩みであるともいえます。神経症は病気という側面と成長という側面の両方を持っています。例えば強迫について考えてみましょう。私たちは乳児期には母親の愛情のこもった母乳で育てられますが、離乳が始まると食事や排泄の「作法」が教えられるようになります。つまり排泄や食事を通して子供はしつけられることになり、与えられた「枠組み」に自分を合わせることを学ぶことになります。この1～3歳の時期は排泄などに関わることからフロイトは象徴的に「肛門期」と呼びました。この時期に子供は几帳面さや「こだわり」を身につけることになりますが、その後の成長に伴い不必要なこだわりを抑えられてゆきます。しかし「こだわり」に親和性の強い人がストレスに出会うと抑えられていた「こだわり」が再現し、繰り返し確認や潔癖にとらわれて苦しむことになります。これが強迫神経症、現在では強迫性障害と呼ばれています。一方、肛門期に組み込まれた「こだわり」がその後の成長過程でも抑えられず、普段の行動様式になると強迫性人格（強迫人）と呼ばれます。このように強迫を制御して新たな適応状態を実現してゆくことは成長そのものといえるでしょう。

一方、ストレスによってもたらされる不安で強迫は賦活されますが、この不安は薬物によって改善することができます。殊に最近では、SSRIという抗うつ・抗不安薬の一部は強迫を改善するという意味で「抗強迫薬」という別名が与えられています。服薬によって3分の2程度の人には改善するといわれ、その意味で「病い」ともいえるのです。神経症は「悩み」と「病い」という2つの顔を持っています。そして神経症は人を育てる「病い」なのです。

神経症には強迫神経症のほかに、ヒステリー、心気症、不安神経症、恐怖症、離人症などがあります。これらの病名は現在では身体表現性障害・解離性障害や不安障害などと呼ばれています。殊に社会恐怖症（社会不安障害）やパニック障害は若い人の間でも注目されている神経症です。社会恐怖症では対人場面を恐れて避けるようになります。パニック障害では動悸や息苦しさなどの自律神経症状を伴う強い不安が発作のように突然繰り返します。いずれにしても生きる上で悩みは避けられませんが、それでも一人で悩まず勇気をふるって相談においでください。

黒澤明の完璧主義～てんかん性格

今年北野武監督がヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞しました。その時に日本映画の将来を故黒澤明監督に託されたという話しも世間を驚かせました。その黒澤監督も、1951年に『羅生門』で金獅子賞を、そして翌年にはアカデミー特別賞を受賞し、「世界のクロサワ」と呼ばれるようになりました。

海外で最も良く知られた日本人としては黒澤明監督がダントツではないかと思えます。私がトロント大学に留学しているとき、休日などに大学図書館でめぼしい図書を物色していると、その一角に黒澤明関係の書籍の棚がありました。その中の1冊を見ていたら白人青年が、その本を借り出したいということで「どうぞ」と渡しました。「世界のクロサワ」を実感させられました。

黒澤監督は、精神科医の柏瀬宏隆氏によると、側頭葉てんかんを煩っており、子供の頃からひきつけを度々起こし、成人してからも短時間の「茫然自失としていること」（てんかんでは非定型欠神発作または意識減損発作と呼ばれます）やてんかん性格によると思われる「癪癪持ちで強情」（爆発性と粘着性）がみられたと自ら述べています。黒澤監督の激昂ぶりは数多くの逸話になっており、撮影スタッフは相当に苦勞したようです。しかしもう一つの強情さは数々の名作を創り出す原動力になったのではないかと柏瀬氏は述べています。例えば、『七人の侍』（1954年、ヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞受賞）は、臨場感に充ちた戦闘シーンの激しさや妥協を許さない密度の高いカットの連続など、神懸かりしたような優れた作品になっています。

しかし1971年12月（61歳）の時に、映画産業の斜陽と黒澤プロの経営困難、映画製作の行き詰まり、日米合作の『トラ・トラ・トラ!』の日本側監督を解任されるなどに見舞われて自殺企図を行いました。お手伝いさんが朝方、風呂の中で血まみれになっている黒澤監督を見つけ、病院に運び一命を取り留めました。しかしその後、88歳で他界するまでの作品は、自殺企図前に比べ、穏やかで内省的なものになり、製作本数も7本と少なく、全てカラー作品に変わりました。自殺企図後に薬物治療を始めたことがこの変化に関係するのではないかと柏瀬氏は推定しています。確かに抗てんかん薬であれ、精神安定薬であれ、黒澤監督の激しさを温順化する可能性は高いと思えます。

しかし黒澤監督の残した名作の数々は小津安次郎や溝口健二と並ぶ、否、その独創性ではむしろ二人を凌ぐものかも知れません。黒澤の愛したドストエフスキーもてんかんを煩った作家でした。てんかんという病は創造する原動力にもなるのかも知れません。

業務案内

健康相談、カウンセリングの曜日、時間については予約申込みをしてください。申込用紙はセンター内にあります。
(TEL075-644-8172)

応急処置

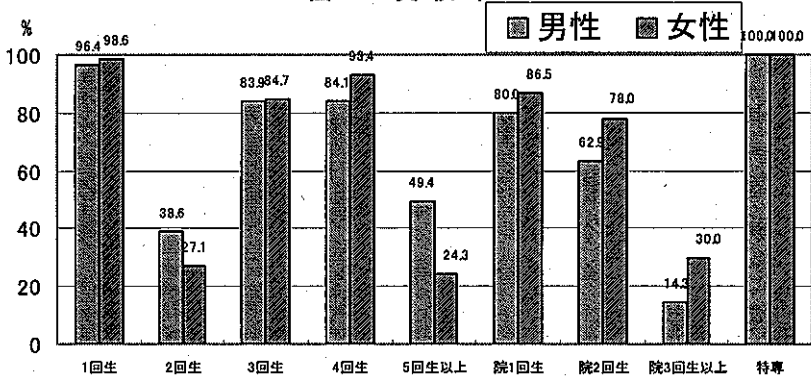
月～金 9:00～17:00（但し、12:00～13:00は除く。）

(TEL075-644-8170)

平成 15 年度健康診断結果

平成 15 年度の定期健康診断を 4 月 1 日・2 日・3 日・4 日に行いました。学生の皆さんご苦労さまでした。今回の健康診断結果の一部を報告します。

図 1 受 検 率



上図に受検状況を示しています。殊に2回生の受検率が極端に低下していることがわかると思います。2回生の中には健診を受けなくてもよいと思っている人がいると聞きました。健康を自ら管理して周囲の人々へ悪い影響を与えることがないように思いやり、自立した人間として健診は毎年受ける必要があります。健診を受けなかったために病気を早期に発見できず、卒業、就職に影響した人もいます。21世紀は疾病の予防の時代です。毎年健康チェックをして、自己管理に役立ててください。

自動証明書発行機での健康診断証明書発行時の注意事項

自動発行機を利用する上で次の点に注意をして下さい。

- ① あくまでも、本年4月に行った定期健康診断の証明であること。
- ② 書式の異なる健康診断証明書は従来どおり、保健管理センターで発行します。
- ③ 定期健康診断証明書の項目を全て受検し、かつ異常所見等がない場合に自動発行機で発行されます。
- ④ 自動発行機にて健康診断証明書の発行が出来なかった人は、保健管理センター、または学生課⑦番窓口にて尋ねてください。